

一般国道153号 伊駒アルプスロードにおける計画段階評価

1. 伊駒アルプスロードの課題

①交通集中により円滑な物流に支障

- 国道153号は、名古屋市から南信地域の主要都市を經由し塩尻市までを結ぶ南北幹線道路であり、そのうち駒ヶ根市～伊那市の区間においては朝夕の通勤時間帯を中心に交通が集中し、混雑度が1.59と周辺道路に比べ高く、主要渋滞箇所が点在。【図1】
- 国道153号(当該区間)の渋滞により、駒ヶ根市と伊那市間の円滑な物流に支障。

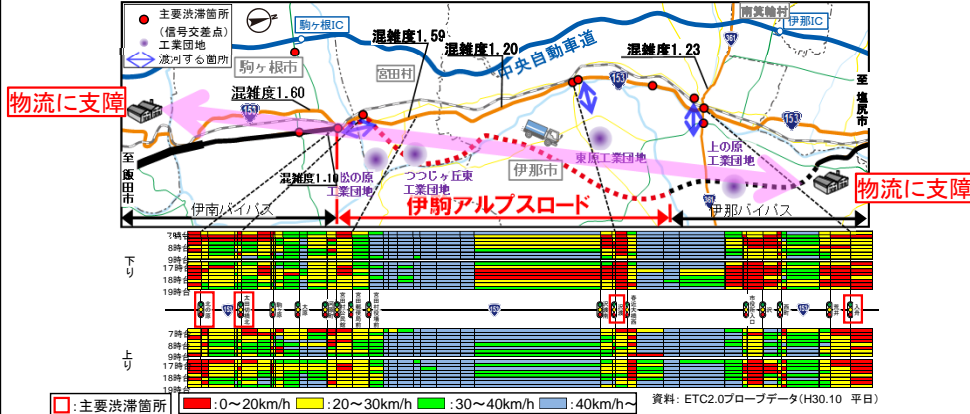


図1 国道153号(当該区間)周辺における交通状況と施設立地状況 (時間/年)

②中央自動車道の代替ネットワークの確保

- 対象路線に並行する中央自動車道では、土砂災害や積雪、事故等による通行止めが毎年発生し、国道153号(当該区間)の交通を阻害(H26年に174時間)。

【図2】

③リニア中央新幹線による観光活性化効果の波及

- 上伊那地域には、人気の観光施設が立地しており、観光入込客数が増加傾向。【図3】
- リニア長野県駅の開業に伴い、更なる観光客増加が期待され、リニア効果を広域に波及するため南北方向の交通アクセス強化が課題。【図4】

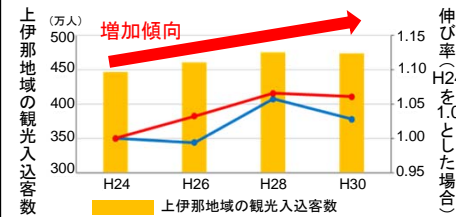


図3 上伊那地域の観光入込客数

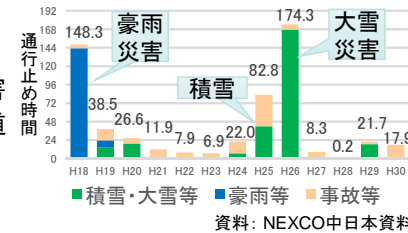


図2 伊那IC～駒ヶ根IC間の通行止め履歴(H18～H30)



図4 周辺観光施設

2. 原因分析

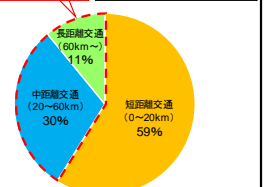
①通過交通と生活交通が混在

- 国道153号(当該区間)の交通量は、最大で約2万台/日、そのうち、約4割が中・長距離交通(通過交通)であり、短距離交通(生活交通)との混在により交通容量を超過。【図5】



写真1 国道153号(当該区間)の渋滞状況

中・長距離交通 約4割



資料:ETC2.0プローブデータ(H30.10)

図5 国道153号(当該区間)の交通特性(A-A断面)



図6 国道153号(当該区間)における渡河部と渋滞箇所

②田切地形と天竜川の地形条件

- 当該地域は、緩斜面や台地が河川によって深く侵食され分断された田切地形により平地が限られると共に、天竜川を渡河する限られた道路との交差点において、朝夕の通勤時間帯を中心に交通が集中し、激しい渋滞が発生。【図6、図7】



図7 河岸段丘(田切地形)

③長野県外からの観光が多い沿線地域

- 県外観光客の割合は、上伊那地域約4割に対し、伊駒アルプスロード沿線地域は約6割となっており、2027年に開業を予定しているリニア中央新幹線長野県駅と接続する広域な道路のネットワークが不足。【図8】

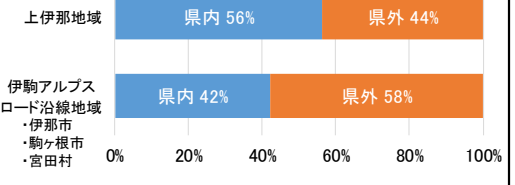


図8 上伊那地域の県内外来訪割合

3. 政策目標

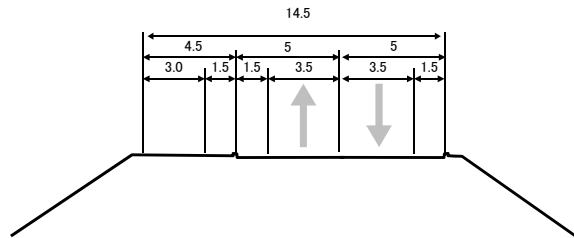
- ①渋滞緩和による企業の生産性向上
- ②中央自動車道の代替路の確保
- ③南北軸の強化による観光支援

一般国道153号 伊駒アルプスロードにおける計画段階評価

4. 対策案の検討

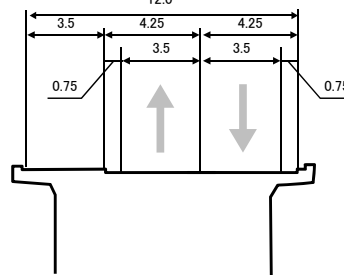
評価項目		案①: バイパス案	案②: 現道拡幅+バイパス案
政策目標	交通集中による渋滞緩和	○ 交通量が現道からバイパスに転換し、現道の交通容量を確保。 混雑度【現況】1.59 ⇒ 【整備後】1.13	△ 現道拡幅区間の、交通容量が十分に確保できない。 混雑度【現況】1.59 ⇒ 【整備後】1.22
	中央自動車道の代替路の確保	○ 高速道路の通行止め時や災害時の代替性機能が確保。	△ 現道活用区間のダブルネットワークが形成されず、災害時の代替性機能が十分に発揮できない。
	南北軸の強化による観光支援	○ 交通の分散・円滑化により、リニア長野県駅～主要観光地の所要時間が短縮。 【現況】79分 ⇒ 【整備後】66分(約2割短縮)	○ 交通の分散・円滑化によりリニア長野県駅～主要観光地の所要時間が短縮。 【現況】79分 ⇒ 【整備後】66分(約2割短縮)
道路整備による影響	環境	△ ・市街地・集落の大気質に影響を与える可能性はあるが、右案に比べ小さい。 △ ・騒音、超低周波音及び振動により、市街地・集落へ影響を与える可能性があるが、右案に比べ小さい。	× ・市街地・集落の大気質に影響を与える可能性がある。 × ・騒音、超低周波音及び振動により、市街地・集落へ影響を与える可能性がある。
	施工時の影響	○ 交通への影響は少ない。	× 現道沿い区間の交通に影響がある。
	住宅地への影響	△ 第1種低層住居専用地域を迂回するため、良好な住環境へ影響を与える可能性は右案に比べ小さい。	× 第1種住居地域を通過し、第1種低層住居専用地域付近を通過するため、良好な住環境へ影響を与える可能性がある。
コスト	○ 約620億円	○ 約600億円	
総合評価	○	△	

【土工部】



標準横断面

【橋梁部】



対応方針(案): 案①による対策が妥当

【計画概要】

- ・一般国道路線名: 国道153号 伊駒アルプスロード
- ・区間: 長野県駒ヶ根市赤穂～長野県伊那市美篤
- ・概略延長: 11.6km
- ・種級区分: 第3種第2級
- ・設計速度: 60km/h
- ・車線数: 2車線
- ・概ねのルート: 図9 案①の通り

(参考) 当該事業の経緯等

経緯

- H23年度 概略ルート検討に着手【長野県】
- H23年11月 公募により区間名称を「伊駒アルプスロード」と決定【長野県】
- H31年2月 都市計画決定【長野県】
- H31年2月～3月 環境影響評価書 縦覧【長野県】
- H31年4月 直轄による権限代行実施の検討を行うための調査を推進【国】
- R2年2月 長野県へ直轄調査結果を送付【国】

地域の要望等

- H31年4月 伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会より早期事業化要望
- R1年6月 長野県より早期事業化要望
- R1年7月 伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会より早期事業化要望
- R1年8月 一般国道153号改良期成同盟会・伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会より早期事業化要望
- R1年11月 伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会より早期事業化要望
- R2年1月 伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会より早期事業化要望



図9 比較ルート図